



メルカトール

記念切手

P. Q.

16世紀のコペルニクスにおける天文学の転回について 科学的地理学の時代がやって来た。それまでの地理学や地図学は航海術の発達によって地理的知識が集積して来たのにかかわらず プトレマイオス (Klaudios Ptolemaios 150年頃アレキサンドリアにおいて活躍し “地理学”の著者 15世紀に大きな影響を航海者に興えた) から脱却することが出来ず 事実をプトレマイオスに合わせようとするのみだったが メルカトール (Gerardus Mercator) によって地図学の新時代が開かれた。

ゲラルト・クレーメル (Gerard Kremer) は1512年にフランドルの小都市ルペルモンドに生れた。メルカトールとは当時の習慣でラテン語化した名前である。彼はルーヴァン大学でゲンマ・フリージウスに師事して数学的地理学を研究分野に選び 地図・地球儀・天文器機の製作によって生計を立てた。

彼は1538年に複心臓型図法による世界図を作り 1541年には1年半を費して地球儀を 1551年には大天球儀を作製した。1554年には15図幅からなるヨーロッパ図を出版し これは当時のもっとも優れた地図だった。

さらに1569年18図幅からなる132×198 cmの大型世界図を完成させた。これはメルカトールの名前をその図法と共に不朽のものとし 地図学と航海術の歴史にとって非常に重要な事件だった。地図学の改革はこの時にはじまり そして同じ重要性を持った労作は2度と再び現れなかったとも云われている。この地図は正式には「航海用に最適の新世界全図」と題されているように 当時の航海の要求一等角航程線が直線で現わされている一を満たすものであった。そのメルカトール図法は

地球の表面を地軸に平行な軸をもち 赤道のところ地球に接する円筒の上に投射する方法である。ために両極に近づくに従って経度の間隔が開くのは同じ比例で緯度が拡大されることによって相殺される。またこの地図は方位が正しく 実際地表上に現われる通りに角を再現する。また土地の形状の相似も保持するが 赤道から遠ざかるにつれて尺度が増大するため面積は正しくない。

この世界図ではヨーロッパやアフリカの形態はプトレマイオスの影響から脱しているが 東アジアやアジア・アフリカ内陸部はプトレマイオスやマルコ・ポーロの記述によって画かれており アメリカとアジアは別の大陸となっている。彼の図法は現在でも海図に最適の図法として利用されている。

その後世界各地の地図を総合した地図帖の作る作業を息子のリュームルトとはじめ 1585年フランス・ベルギー・ドイツの51図が 89年にはイタリア・ギリシャの23図が出版されたが 1594年に彼は没した。その翌年にイギリス・アジア・アフリカ・アメリカ諸国を加えた107図からなる地図帖が完成され 彼の遺志によりアトラス (Atlas ギリシャ神話のタイタン族の1人 ゼウスに戦を挑んで負け その罰として頭と手によって天を担うように宣告された) の標題で出版されたが それ以来 その名はこの種の地図帖に対して用いられるようになった。

切手は1942年4月15日発行の結核基金学者シリーズ9種1組のうち1.75f+50cと 1962年4月14日発行生誕450年記念3fである。